

対談

MieLIP鈴鹿 ～現状と展望～

平成26年2月14日、みえライフイノベーション総合特区における地域拠点の一つに位置づけられ、CYBERDYNE(株)のロボットスーツHAL®(以下「HAL®」)をはじめとする医療・福祉機器等の開発支援をおこなっている「MieLIP鈴鹿」について、産学官を代表する地域企業団体・大学の代表者、首長が現在の取り組みと今後の展望を語り合う対談が行われました。(平成26年3月ケーブルネット鈴鹿にて放送)

パネリスト

三重県知事
鈴鹿市長
鈴鹿医療科学大学理事長
鈴鹿商工会議所会頭

鈴木 英敬
末松 則子
高木 純一
山本 忠之

コーディネーター

鈴鹿医療科学大学
学長
豊田 長康



鈴木英敬知事

「総合特区の取り組みにより、すでに医療・健康・福祉分野の製品が創出されるなど、地に足のついた活動が始まっている。MieLIP鈴鹿には、医療福祉系総合大学である鈴鹿医療科学大学をはじめ、ものづくり企業や行政等による強固な産学官連携の基盤がある。北勢地域は本県の製造業を支えている地域であり、MieLIP鈴鹿には三重県全体の製造業をけん引してほしい。鈴鹿発の製品が世界へ進出していくよう県も可能な支援を行っていききたい」



末松則子市長

「鈴鹿市ではHAL®による訓練費用に対して補助を出すなど、市独自の支援を行っている。また、鈴鹿市は「住生活関連産業」に注力しており、鈴鹿市の持つ高い「ものづくり技術」を生かし、企業・研究機関・行政が一体となってMieLIP鈴鹿の活動を応援していきたい」



高木純一理事長

「HAL®の利用により、多くの患者の方々にリハビリ効果が表れている。本学が中心となって行っているリハビリデータの収集や研究により、HAL®のさらなる改良や進化につながるであろう。また、医療機器・医薬品・機能性食品等の開発や予防医学の取り組みなど、医療福祉系総合大学として県内の医療・健康・福祉分野の産業振興をめざしたい」



山本忠之会頭

「鈴鹿商工会議所では産学官連携を推進するため、平成11年からSUZUKA産学官交流会を立ち上げており、シャクヤクを活用した製品などを生み出している。CYBERDYNE(株)と会員企業の連携についても、これまでの実績や連携しやすい環境を生かした柔軟な対応が可能であり、今後の展開に大いに期待したい。総合特区の成功には産学官民が一体となり推進する必要があり、当会議所としても地域を代表する経済団体として取り組んでいきたい」

対談では、MieLIP鈴鹿が産学官民の連携により、県内のイノベーションを進展させ、三重県発のライフイノベーション関連製品を国内のみでなく、世界にまで進出させていく機能を果たせる拠点になるよう期待したい、と締めくくられました。



みえライフイノベーションフォーラム

平成26年2月12日、三重県の産学官民のネットワークの充実をめざして、「みえライフイノベーションフォーラム」が開催されました。フォーラムでは鈴木英敬知事が、「みえライフイノベーション総合特区の取り組みについて」と題して、現在の取り組みや成果について説明しました。

基調講演では、GEヘルスケア・ジャパン(株)の早川和彦氏から「GEおよびGEヘルスケアのビジネスと成長戦略」と題して、同社の事業展開について説明いただきました。今後の医療分野で必要とされる技術として、小型化・省電力化・静音化・低コスト化につながる技術をあげ、それらの技術を持つ企業をパートナーとして募集しているとのことでした。



早川和彦氏
GEヘルスケア・ジャパン(株)
機構設計部長



石川廣氏
(独)医薬品医療機器総合機構
テクニカルエキスパート

講演Iでは、(独)医薬品医療機器総合機構の石川廣氏から、「薬事戦略相談の事業概要とその活用について」と題して、平成23年7月から始まった薬事戦略相談制度の説明がありました。本制度は、高い技術力を有するベンチャー企業等を対象に、医療分野の商品化に関する相談に応じるコンサルタント事業で、講演翌日には個別面談(無料)が実施され、7件の薬事相談がありました。

講演IIでは、国際知的財産活用促進連盟の小池清仁氏から、「国際的な技術活用スキーム(知財権・ノウハウ)の事例研究と日本での展開」と題して、主に中国の知財戦略についての説明がありました。中国では国の戦略に基づき、知財の活用を推進しており、最近では開発途上国を支援するような動きもあるとのこと。技術獲得に熱心に取り組んでおり、日本の企業や大学でも、単独では困難な面があっても、クラスターとして技術売り込む場合は十分チャンスがあるとのことでした。



小池清仁氏
国際知的財産活用促進連盟
事務局長

講演終了後は、多くの来場者が講師を囲んで熱心に意見交換がされました。

みえライフイノベーション総合特区 福祉用具・ものづくり研究会 ～工場見学会の実施～

皆さんは義肢装具の製作現場をご覧になったことがありますか?

みえライフイノベーション総合特区福祉用具・ものづくり研究会では、福祉用具に関するものづくりの参考とするため、平成26年1月24日に、医療・健康・福祉分野に関心のある県内ものづくり企業の方々とともに、大阪府の川村義肢(株)を訪問しました。

今回の見学会では、日本最大級の義肢装具の製作工場における、短下肢装具の製造工程を見学させていただいたほか、医師やユーザーの情報をもとに製品をつくる過程についても教えていただきました。今後の研究会活動にも、ぜひ注目してください!



見学風景